

川崎市生田緑地におけるメミズムシの新記録

A new record of *Ochterus marginatus* (Latreille) (Hemiptera, Ochteridae)
from the Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City, Kanagawa Prefecture

川島逸郎*

Itsuro Kawashima*

*川崎市青少年科学館（かわさき宙（そら）と緑の科学館）

*Kawasaki Municipal Science Museum

林・尾崎 (2006) によれば、川崎市内では麻生区早野からの 1 例 (後藤, 1992) が知られるのみのメミズムシ *Ochterus marginatus* (Latreille, 1804) が、このたび多摩区の生田緑地において得られたので、同地からの新記録として報告する。

本種は、池沼や谷戸の湿田などに生息し、ミズギワカメムシ科 Saldidae の種などと同様に、岸边などに現れた湿泥上を好んで徘徊する習性がある。比較的敏捷に歩行あるいは飛翔し、水際など同所的にすむ小昆虫を捕食する。かなり狭小な水域にもみられ、生息地での個体数は少ない場合も多い。これまで、川崎市内からは知られていなかったものの、上記のような水際の微生息環境で留意すれば、他にも残された産地が発見される可能性があるため、注意喚起の意味も含めて報告しておくこととした。

採集記録

2 exs., 多摩区枅形 7 丁目 (生田緑地・奥の池上段), 10-VI-2015, 川島逸郎採集 (図)。

当該標本は、現時点では登録番号は付されていないが、川崎市青少年科学館に収蔵保管されている。

現在、「奥の池」は上下 2 段から成っているが、本体である下段の池の周縁部は人工的な造作がなされている。本種が好む湿土などが生じた岸边や水際は、北側を除いては多くない上に、この池には特定外来生物であるウシガエルも多くみられることから、その強い捕食圧を受けている可能性もあり、現在の処、本種の発見には至っていない。上段には、北側斜面下 (日本民家園側) からの湧水が滲出する、ホトケドジョウの保全活動が行われている小規模な池が造られている。この池の水量は、降雨その他の要因により多少の変動があるが、その水位によっては、岸边の一部に、表層をごく薄く水で浸された程度の泥土部分が現れることがあり、今回得られた個体は、そのような部分から発見された。

生田緑地内には、本種の生息に適した止水域は必ずしも多くはないが、北部の谷戸 (枅形 6 丁目) などで綿密な調査を行えば、新たな生息地点が発見される可能性がある。



図) 生田緑地産メミズムシ標本。

引用文献

後藤好正, 1992. 横浜市北西部の半翅類分布資料 (1). 神奈川自然保全研究会報告書, (11): 17-24.
林 正美・尾崎光彦, 2004. カメムシ目 (異翅亜目・頸吻亜目) Hemiptera (Heteroptera & Auchenorrhyncha). 神奈川県昆虫誌 I, pp. 213-272, 神奈川昆虫談話会, 小田原。